展示会「伝染病と闘ってきた」及び特別講演会を開催

●附属図書館医学部分館

附属図書館医学部分館は、６月10日（水）から９月30日（水）までの間、展示会「伝染病と闘ってきた－虎列剌 窒扶私 痘瘡 實布垤利亞 黒死病 そして－」を開催しました。これは、同館４階にある医学部史料室の所蔵品の中から、「伝染病予防法」が施行された1897年前後の人間と伝染病との歴史に関連する古医書、掛図、医療器具などを展示する企画です。

展示会の様子

明の医学者である呉有性による『温疫論』、伊藤圭介とともに種痘所を開いた鈴木容藏の手記「種痘所用留」を含む『尾州徳川藩種痘所記録』、明治中期の種痘用具一式、愛知医学校（名古屋大学の前身校）時代の講義ノート『虎列剌』、愛知医学校の一等教諭川原　汎が翻訳した『虎列剌病抜失爾々斯論』、コッホ博士が来名した際の北里柴三郎らとの記念写真、關東都督府臨時防疫部による『明治四十三、四年「ペスト」流行誌』、後藤新平が題字を書いた掛図『通俗衛生図解』、戦後当時の切手が貼られた伝染病患者届出票など、多彩な資料は多くの来館者の関心を集めました。

また、期間中の７月10日（金）には、疫学、予防医学で著名な青木國雄名誉教授を招き、「わが国の疫病（伝染病）流行とその社会的衝撃」と題する特別講演会を開催し、市民ら40名が聴講しました。紀元前のミイラのあばたの話から始まる天然痘、はしか、ペスト、結核など疫病の流行の歴史をエスプリのきいた話題で辿り、また、あばたの残った韓国の仮面の実物を示し、参加者の知的好奇心を大いに刺激しました。